

山科本願寺南殿跡

発掘調査現地説明会資料

2002年1月12日

(財)京都市埋蔵文化財研究所

山科本願寺南殿跡発掘調査現地説明会資料

所在地 京都市山科区音羽伊勢宿町38-1、他

調査期間 2001年11月12日～継続中

調査面積 約501㎡

調査主体 (財)京都市埋蔵文化財研究所

1 はじめに

蓮如上人は文明10年(1478)から15年(1483)にかけて、山科の地に堀や土塁を巡らした本願寺を造営されました。さらに延徳元年(1489)にはその東側に南殿を営み、隠居の地としました。明応8年(1499)2月、蓮如上人は大坂から山科南殿に戻り、3月25日に入滅しました。

こうした山科本願寺(寺内町)や南殿は、その後戦火に遭い荒廃してしまいましたが、南殿跡の一部は現在、真宗大谷派光照寺境内の南側に良好な状態で残っています。

南殿跡は、今までに地形測量や立会調査などがおこなわれていますが、発掘調査は今回が初めてです。調査の結果、山科南殿跡の堀、土塁、掘立柱建物、柵列、溝などを見つけることができました。

(1)本 1 2

2 発見した遺構

堀 南北方向に掘られた堀で幅5.4m、深さ1.7mの規模です。堀の断面はU字形をしています。土止めを施したような痕跡は一切認められません。この堀の続きは、調査地の南側でも見ることができます。

土塁1 土塁1は、堀のすぐ西側で基底部を発見しました。この土塁は、調査地の南側に見られる土塁のように高く土盛りされていたと考えられますが、江戸時代に今のように削平されたかも知れません。土塁の基底部は幅6mから7mほどあります。土塁の北限は掘立柱建物の南側です。

土塁2 東西方向の土塁で、基底部の幅は約7.5mです。発見した土盛りの高さは60cmほどあります。この土塁に伴う明確な堀は、現在までのところ確認していません。なお、この土塁の続きは調査地外へと延びています。

掘立柱建物 一間四方の建物で柱間寸法は、東西9尺(約270cm)、南北7尺(約210cm)です。

柱穴の底部に川原石を据え付けているものもあります。

柵列1 掘立柱建物を囲むような状態で発見しましたが、全容は不明です。そのため、現段階ではこの柱穴を柵列の跡ではないかと考えています。柱間寸法はおおよそ2mで、掘形底部に川原石を据え付けたものとそうでないものがあります。

柵列2 柱間は不揃いですが、柵列ではないかと推定しています。

溝 土塁2と堀との間を流れる素掘りの浅い溝です。光照寺境内に見られる園池に水を引き込むための溝ではないかと考えています。

土取り穴 不定形の大きな土窟ですが、土取りを目的にした穴ではないかと推定しています。埋土の中からは、室町時代後半頃の土器が出土しました。

3 出土した遺物

堀、柱穴、土取り穴、土塁などから室町時代後半から江戸時代までの遺物が出土しています。土取穴からは室町時代の遺物が出土しました。また、堀からは江戸時代前半の土器が発見されています。しかしながら、出土量はあまり多くありません。

まとめ

今回の調査によって、光照寺境内の南側に現在も残っている堀や土塁の続きを確認し、具体的な遺構配置や規模、変遷などを明らかにすることができました。

以下に、主な調査成果をまとめてみました。

- ①光照寺境内の東側や南側にある堀や土塁は、従来から指摘されているように南殿の旧状を良く伝えていることを確かめました。
- ②堀と土塁1の北限をおおよそ確かめることができました。
- ③堀の北端部は、江戸時代前半に埋め立てられましたが、光照寺境内部分はほとんど人の手が加えられることなく今日に至ったようです。
- ④土塁2は、調査区内で途切れることなく東西両側に続いています。この土塁と光照寺境内南側土塁との距離は中心で約126mほどあります。
- ⑤一間四方の掘立柱建物は、^{やぐらもん}櫓門のような施設ではないかと推定しています。
- ⑥溝は土塁2の南側を流れていますが、その位置は光照寺所蔵の「御在世山水御亭図」（南殿遺跡古図）とおおよそ符合します。
- ⑦南殿も本願寺（寺内町）と同様に、堀と土塁が巡らされていました。

山科本願寺関係の略年表

- 応永22年（1415） 七世存如の嫡子として蓮如が生まれる。
- 長祿元年（1457） 蓮如、本願寺八世宗主となる
- 文明3年（1471） 蓮如、越前吉崎に坊舎を構える。
- 文明7年（1475） 蓮如、越前吉崎御坊を去る。
- 文明9年（1477） 応仁、文明の乱一応終わる。
- 文明10年（1478） 山科本願寺の造営始まる。
- 文明12年（1480） 御影堂が落成する。
- 長享2年（1488） 加賀一向一揆おこる。
- 延徳元年（1489） 山科南殿を造営する。
- 明応6年（1497） 大坂石山坊舎造営。
- 明応8年（1499） 2月20日大坂から山科南殿に戻る。
- 明応8年（1499） 3月25日蓮如没す、85歳。
- 大永5年（1525） 九世宗主実如没す。証如、十世宗主となる。
- 天文元年（1532） 8月24日、法華宗・延暦寺・六角氏の攻撃により焼亡。
山科本願寺陥落。
- 天文2年（1533） 証如、石山坊舎を本寺と定める。本願寺大坂へ移転。
- 天文5年（1536） 7月、天文法華の乱。
- 元亀元年（1570） 織田信長との石山合戦開始。
- 天正8年（1580） 本願寺顕如、信長と和睦。石山本願寺退去。
その後、紀伊鷲森・泉貝塚・大坂天満と移転を繰り返す。
- 天正14年（1586） 豊臣秀吉の朱印状をもって山科に寺領を回復する。
- 天正19年（1591） 本願寺、京都七条堀川（現西本願寺）へ移転。
- 慶長7年（1602） 東本願寺別立。このときから東西本願寺となる。
- 享保年間（1716～1736） 東西本願寺がそれぞれ山科別院を建立。

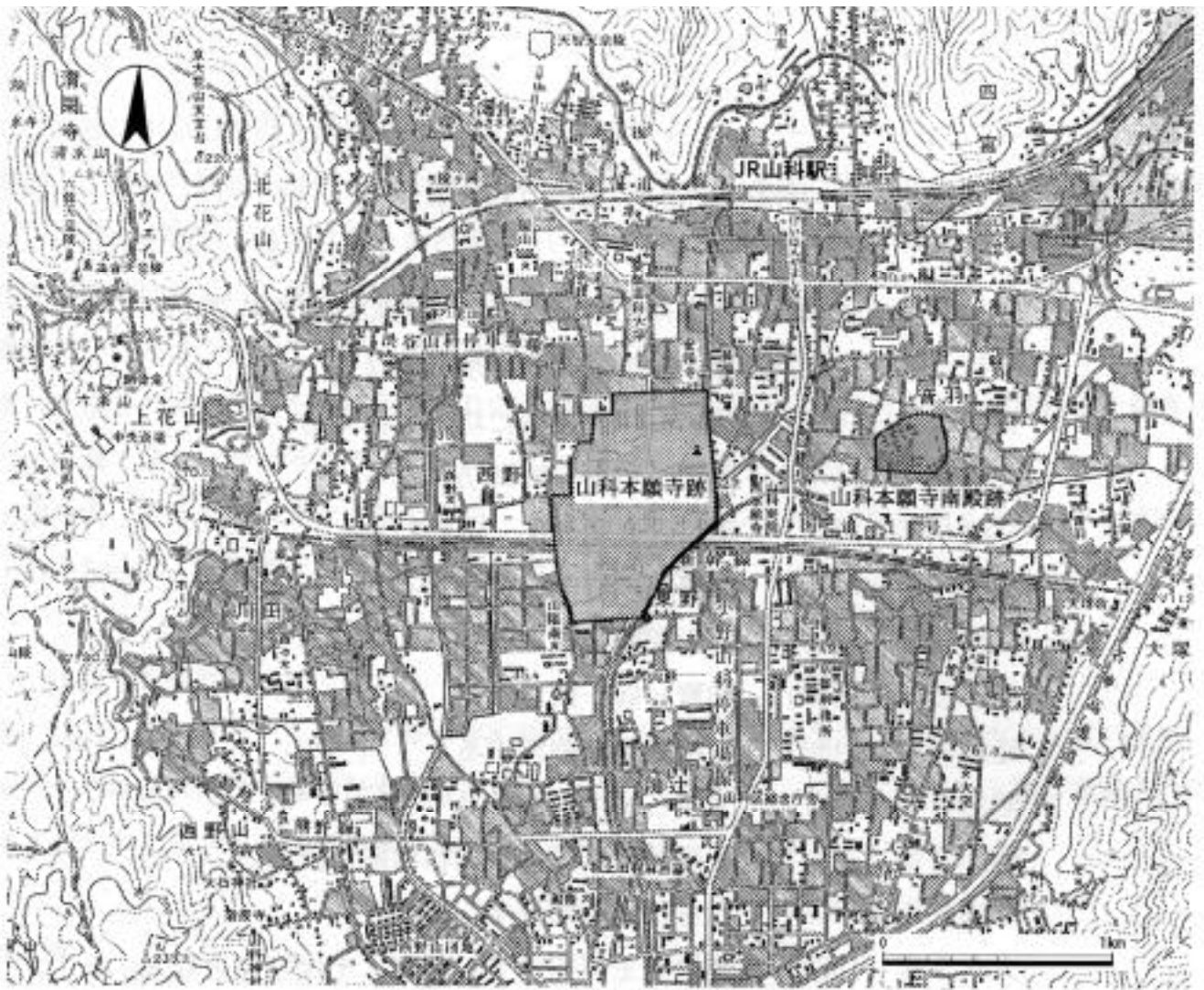


図1 山科本願寺と南殿の位置

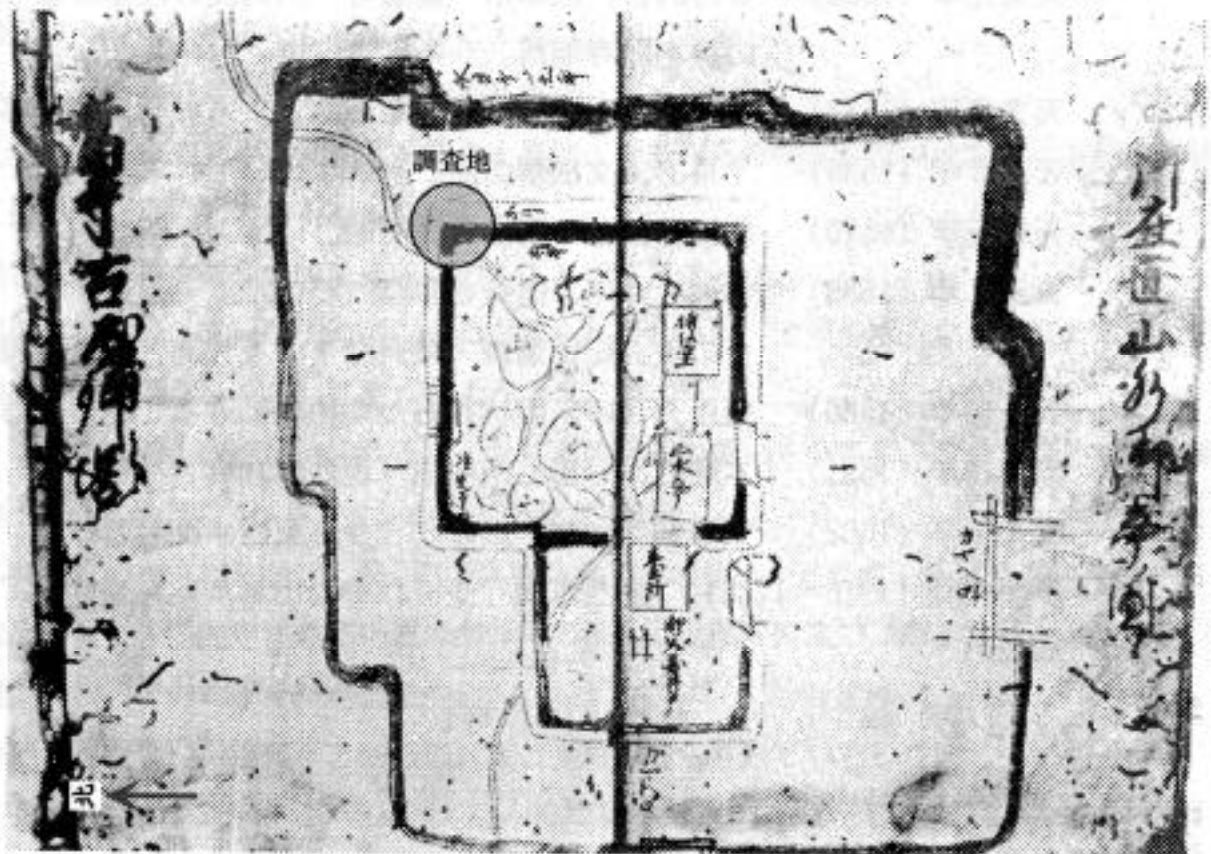


図2 山科本願寺南殿古図（光照寺所蔵）

『京都府史蹟勝地調査会報告』第7冊図版31の（一）に加筆

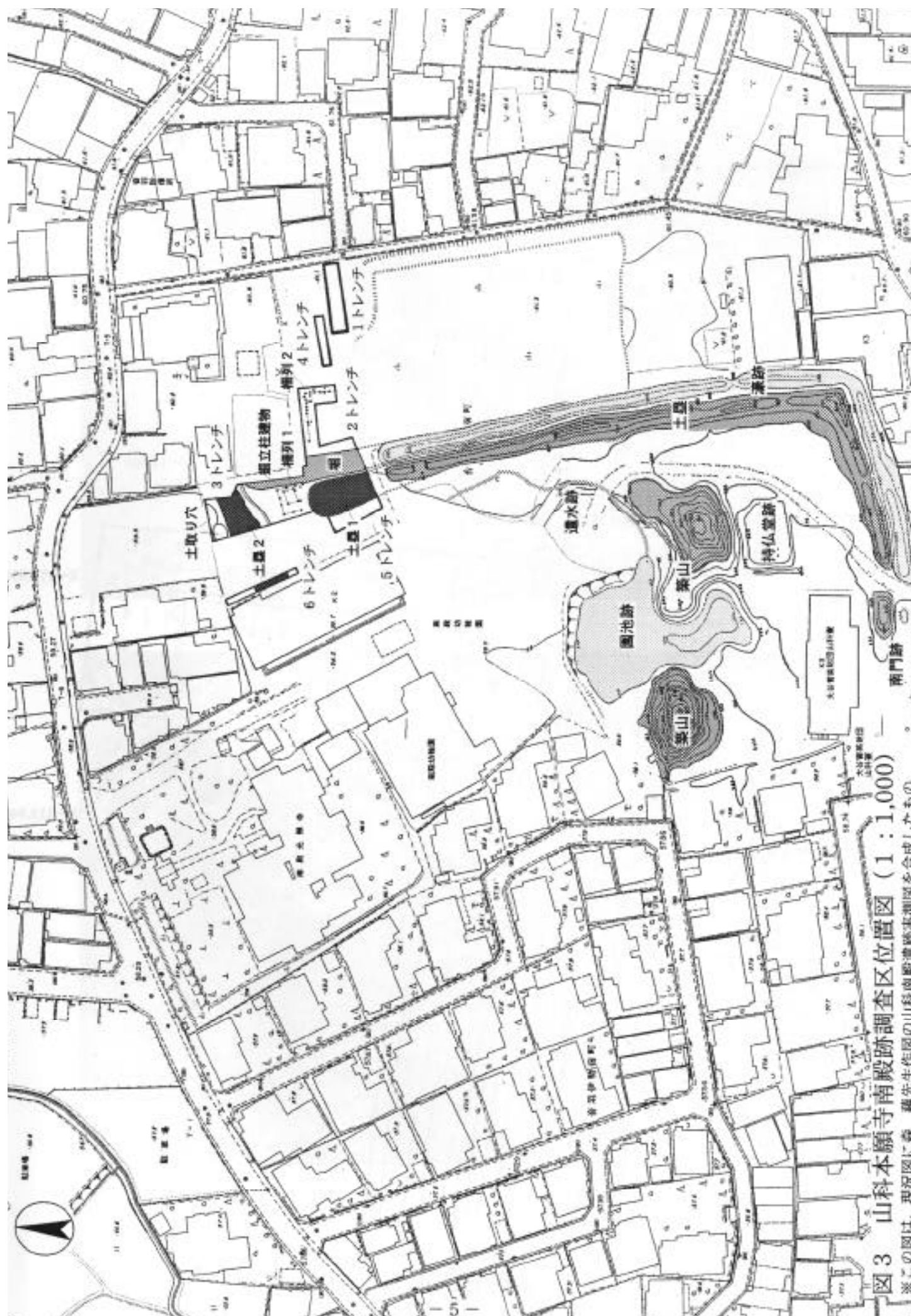


図3 山科本願寺南殿跡調査区位置図 (1:1,000)

※この図は、現況図に基き、藤先生作図の山科南殿跡遺跡基本地図を合成したものである。

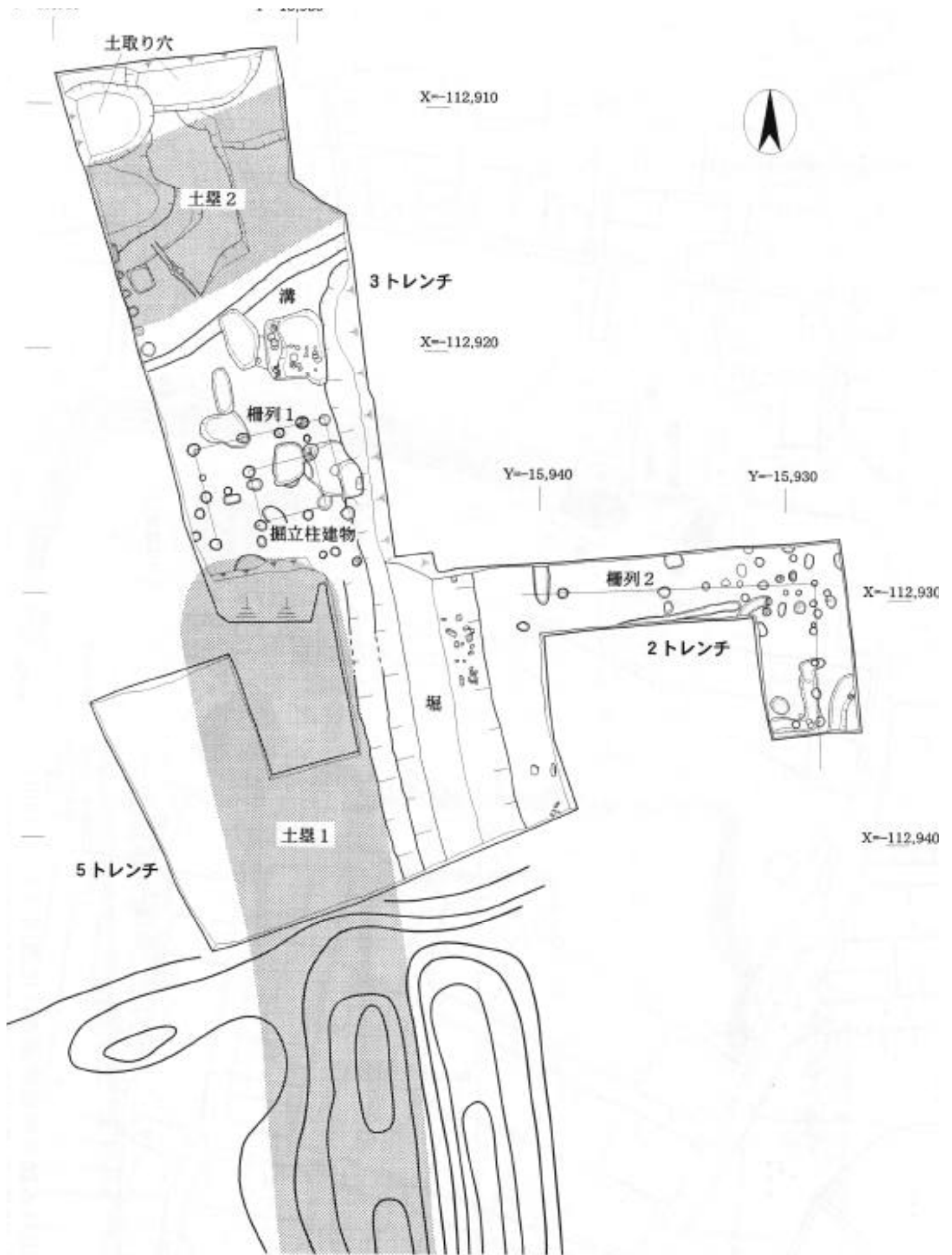


図4 遺構配置図 (1 : 200)



1 1トレンチ全景写真（北西から）



2 2トレンチ全景写真（西から）



1 3・5トレンチ全景写真（北から）



2 堀跡の断面写真（南から）



1 光照寺境内に残る土塁（北西から）



2 光照寺境内に残る土塁（北から）